

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

書くこと部 研究主題 学習改善・授業改善につながる評価活動の充実
児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり

第1学年国語科学習指導案

単元名 おしえるよ！ここが すき

～新1年生に、すきなばしょをしょうかいする文しょうをかく～

日 時：令和4年11月24日(木)5校時
児 童：調布市立緑ヶ丘小学校 第1学年1組 30名
指導者：調布市立緑ヶ丘小学校 主任教諭 吉田 知美

1 単元の目標

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能(2)ア〕
- 経験したことや調べたことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等B(1)ア〕
- 粘り強く、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって紹介する文章を書こうとしている。
〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	①「書くこと」において、経験したことや調べたことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ②「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ	① 粘り強く、経験したことや調べたことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 ② 学習の見通しをもって、自分が伝えたい題材について紹介する文章を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

5月の「せんせい、あのね」では、経験したことから書くことを見付け、担任に話しかける形の簡単な文章を書く学習を行なった。6月の「しらせたいことをかこう」では、身近な出来事から知らせたいことを選び、書く学習を行なった。また、説明的文章「だれが、たべたのでしょうか」では、問い・答え・説明の構成を活かして、自分が選んだ動物の食べ跡について説明する文章を書く学習を行なった。更に、日常的な書くことの学習の取り組みとして、テーマに沿った作文を行っている。これまで、全校遠足などの行事について、休みの日の過ごし方についてなど生活に関わる題材を取り上げた。また、「雨は好きか。」など自分の考えを書くような題材にも挑戦した。テーマがあるため、書く内容について悩む児童は少ない。ほとんどの児童が、文例を参考にしながら書くことができている。しかし、記述には課題がある。書きぶりを整えたり文を適切に区切ったりすることなどは丁寧に指導する必要がある。

(2) 学習材について（学習材観）

本単元では、経験したことや見聞きしたことを基に好きな場所を紹介する文章の書き方を学ぶ。自分が日常的に過ごしている学校について、経験と結び付けて見直すことで、好きな場所を再認識することができる。そうして見付けた好きな場所について文章を書いて紹介することで、自分の経験や思いが共有できるという達成感も味わいたい。また、どのように書くことを決め、情報を集めたり確かめたりするとよいのか、その中から自分の伝えたいことは何なのかを考えながら書く学習を通して、経験したことや見聞きしたことを正確に伝える力を身に付けさせたい。これは、相手意識や目的意識に応じて書く内容を精査したり書き方を考えたりすることの必要性を実感するきっかけとなると考える。

(3) 単元について（単元観）

本単元は、「新1年生に、学校の好きな場所を伝えたい!」という児童の思いを土台とした学習である。2学期も後半になり、児童は就学時健診などが実施されているのを見聞きしている。その中で、4ヶ月後には新1年生が入学し、自分たちが先輩になるということに児童が目を向け始めている。入学した際に上級生が学校のことを丁寧に教えてくれたように、自分たちも新1年生に学校のことを伝えたいという思いをもつ児童も多い。そこで、「新1年生に学校の中で好きな場所について紹介する文章を書く」という言語活動を設定した。

本単元では、単に学校の中にある場所を紹介するのではなく、自分の好きな場所について紹介することをねらいとしている。これは、新1年生に「小学校に早く行きたい!」「楽しみだな。」と思ってもらえる文章を書くためである。入学してから半年以上が経ち、児童は学校内で様々な経験をしてきた。児童がその場所とその場所にまつわる経験を書くことで、「こんなに素敵なことがあるんだ。」「小学校は楽しそうだな。」と感じてもらえるだろう。そうしたワクワク感を引き出すためには、単なる場所の紹介ではなく、思い入れのある好きな場所について紹介することが適切であると考えた。今後、新1年生は入学する前にも学校を訪れる機会がある。来校した際、現1年生が選んだ好きな場所に、そこを紹介する文章があることで、新1年生に喜んでもらうことができる。また児童は実際に読んでもらえる実の場があることで、「書いてよかった」という成就感を味わうことができるだろう。書いた紹介文は、校内にQRコードで掲示し読めるようにするだけでなく、自身の保護者にも読んでもらうこととした。これは、学校の先輩として活躍する姿を、文章を通して示すことで、児童の書く意欲向上につながるためである。また、自身の保護者から次年度に向けた励ましの言葉をもらうことで、より達成感を得ることもつながるだろう。

好きな場所やそこでの経験を伝えるためには、普段何気なく見ている場所についてよく見つめ直したり、自分の経験を振り返ったりする必要がある。そうして、どのように校内の場所についての事柄を集めたり確かめたりすればよいか、何を伝えるとよいかをよく考えて情報を収集する経験をすることができる。そこで、まずは、0次では入学してからの生活を振り返り、どのような場所でどのような経験をしたのかを想起する。また、学校探検を思い出し、校内の様々な場所について、知っていることが増えたことにも気付けるようにする。次に、新1年生に自分の好きな場所を伝えたいという思いから相手意識と目的意識を明確にもち、校内の場所についてより詳しい視点で見えていくことで、書くことを見付けていく。その際、文例を提示することで、どのような内容を、どのような順序で書けば、自分の伝えたいことが明確になるのかを児童自身に実感させ、単元全体の見通しをもって学習を進めて

いく。さらに、一人1台端末を情報の収集や実の場で活用する場面を設定することで、意欲的に学習に取り組めるようにする。

4 研究主題に迫るために

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

本単元では、児童が自らの生活の中で経験したことや見聞きしたことから書く内容を見付け、書くために必要な事柄を集めたり、書こうとする題材に必要な事柄がどうかを確かめたりして、伝えたいことを明確にする力の育成をねらっている。「新1年生に、学校の好きな場所を伝える」という言語活動を通して、書くために必要な知識や技能の高まりや自覚の深まり（知識及び技能）と、書く対象についての見方や考え方、認識の深まりや広がり（思考力・判断力・表現力等）が一体となって働くことで深い学びを目指す。具体的には、振り返りチェックシートや学習感想による自己評価によって、児童が自らの学習の状況を把握し、次の学習活動を柔軟に選んでいけるようにする。また、友達との交流や相互評価によって、他児童の考えを認めたり自分のよさに気付いたりすることで、よりよい学びを生み出すようにする。これらを通して、自分の思いや考えを明確にし、見方・考え方が深まっていくことを期待する。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

① 単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

本単元で身に付けさせたい力は、経験したことや見聞きしたことを正確に伝える力である。これは、書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることである。さらに、それを正確に伝えることでもある。この時期の1年生は、だんだんと書くことに慣れ、少しずつまとまりのある文章を書く経験を増やしている段階である。書くためには「書きたい!」という思いをもって取り組むことが大切である。また、想起した経験から書きたいことや伝えたいことを見だし、書こうとする題材に必要な事柄を集める必要がある。本単元では、児童が日常を過ごしている学校内の場所を取り上げ、改めて見つめ直すことで自分の好きな場所に気付き、次年度入学する新1年生に紹介する文章を書くという、明確な目的意識と相手意識をもつことができる。さらに、情報を収集する際に一人1台端末を活用し、その場所の詳しい様子を捉えたり何度も見返したりすることで、必要な事柄を十分に集めることができると考えた。そのため、「書くこと」の言語活動の入門期として、児童の書きたい意欲が高まる題材だと考えられる。また新1年生に読んでもらうだけでなく、自身の保護者にも読んでもらいコメントをもらうことで、「書いてよかった」という達成感を味わうことができるだろう。そうすることで、今後の「書くこと」の学習に取り組む意欲の基盤が作られていくと考えた。

②主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

○柔軟な学習過程を促す学習活動

文章を書く過程で、書き手の必要に応じて、「構成の検討」から「情報の収集」に立ち戻ったり、「記述」から「情報の収集」に立ち戻ったりすることで、より伝えたいことを明確にして相手に伝わる文章を書くことができる。「もっと詳しく見よう。」「どのようなことをしたのかよく思い出したい。」と学習者である1年生の思いが叶えられるように、学習過程を柔軟に行きつ戻りつできるようにした。また本単元では、一人1台端末を活用した「情報の収集」を行う。それぞれが端末で自分の好きな場所の動画や写真を撮影することで、より詳しくその場所について気付くことができる。そして必要な時に繰り返し見ることもでき、「説明」や「したこと」を想起するのに効果があるのではないかと考えた。

○個の学びを充実させる学習活動

文章を書くことを学び始めたばかりの1年生にとって、書く事柄を考え、文字で表し、表現していくことは難しさを伴う学習である。そこで、インタビューカードを用いて質問をしていくことで、書きたいことを明確にしたり詳しく様子を思い起こしたりすることができると考えた。このインタビューカードでは、「説明」と「したこと」に関する質問項目を分類して一覧にしておく。書き手は自分の収集した情報のうち、「説明」と「したこと」のどちらの付箋をより増やす必要があるのかを考え、ペアに伝える。ペアの友達は、書き手が収集したい情報に関する質問をし、書き手はその質問に答えることで具体的に書く内容を広げていくことができる。その際、発達の段階に留意し、質問した項目には印をつけておく。答えた内容を忘れてしまっても、自分でその質問項目に目を通すこと

で再度思い出すことができ、付箋に書き出せると考えた。また、項目ごとに色分けした付箋を使うことで、視覚的にどの項目を増やせばよいのかを捉えることができると考えた。

(3) 評価活動の工夫

① 「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

座席表を基にした「座席表型評価簿」を活用し、前時までの児童の実態と本時の支援を明確に示すことで、児童全員が「おおむね満足できる状況」を達成することを目指す。これにより、児童がどのような状況にあるのか、教師がすぐに把握することができ、適宜、助言することも可能になる。また、個別にすすめる活動や話し合いの相手などを記入した児童用のヒントシートも提示することで、自己評価や自らの学びの調整に役立てる。

② 教師が指導の改善を図るための評価の工夫

学習計画と振り返りが一体化された「学習計画表・振り返りチェックシート」を活用し、チェックされた項目や記述されたことと実際の本時での学習活動の様子、実際に書かれたワークシートを照らし合わせる。そして、個人の理解度や達成度を把握し、次時の指導に活かしていく。

③ 児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

学習計画と振り返りが一体化された「学習計画表・振り返りチェックシート」を活用し、児童が自ら学びを見通し、振り返り、調整することができるようにする。このシートは、毎時間に達成する項目について確認するだけでなく、次時に向けて取り組もうとすることも書けるようにした。また、教師が、学習計画表・振り返りチェックシートに毎回目を通し、励ましの言葉やアドバイスをすることによって、児童自ら、「次はこうしよう」という学びの調整に気付くヒントとなると考える。

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
0		<ul style="list-style-type: none"> ・半年経った学校生活を振り返り、分かったことやできるようになったことを想起する。 ・2年生との学校探検を振り返る。 ・担任の好きな場所を紹介する。 ・あと4ヶ月で2年生に進級し、新1年生の先輩となることを知る。 		
一	1	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活を振り返り、学校にはどのような場所があり、そこでどのような経験をしたのかを振り返る。 2 文例と出会い、学校の中の好きな場所について、新1年生に紹介する文章を書くという見通しをもつ。 3 学校の場所を思い起こし、紹介する好きな場所を考える。 ① 全体で板書しながら場所やその場所でしたことなどを思い出し、整理していく。 ② 場所と経験にまつわる物（ピアノ・たいこ・うんてい・桜の木など）も「好きな場所」として扱ってよいことを確認する。 ③ 短冊に、何について書きたいか（あるいは取材したいか）、またその場所を選んだ理由を書く。 4 「学習計画表・振り返りチェックシート」を活用して振り返り、情報の収集の見通しをもつ。 	<p>○同じ場所でもそこでの経験が違ったり、その場所に対する思いが違ったりすることを共有する。</p> <p>○校内地図や写真を提示し、場所や経験を想起しやすくする。</p> <p>○文例を基に、それぞれの場所についての「（その場所が）どんなところ」「したこと（経験）」「（その時に）思ったこと」が書かれていることを確認する。</p> <p>○文例を用いて「したこと」が書かれている場合とない場合を比較し、「したこと」が書いてあると、好きな気持ちがより詳しく伝わることを確認する。（文例で「したこと」の段落がフリップ形式で比較できるようにする。）</p> <p>○文章に書かれている内容を確認する。 はじめ：好きな場所・その理由 中：その場所がどんなところか（説明） その場所での思い出（したことや思ったこと） おわり：新1年生へのよびかけ（メッセージ）</p> <p>○好きな場所を考えるとときには、どうしてその場所が好きかを考えるとよいことを確認する。また、その場所でしたことなどつなげて思い出すとよいことも確認する。</p> <p>○短冊には、場所（場所にある物）・好きな理由・その場所でしたことを書くようにする。</p> <p>○一つに決められないときは、複数あってもよいことを伝える。（現時点）</p> <p>○好きな場所の「説明」と「したこと」を思い起こすのに、どのように情報を収集するかを選択する。（その場に行ってみたり再体験したりする・一人1台端末を活用して写真や動画を撮影する）</p>	<p>◆共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。ア①</p> <p>★取材シート</p>

	課外一	【情報の収集】 自分の好きな場所に行ったり、写真や動画を、一人1台端末を活用して撮影したりする。	○好きな場所が一つに決められていない場合は、複数の場所について撮影しておくように助言する。	
二	2 (本時)	1 「中」の内容を書くことを知り、付箋の書き方を確かめる。 2 好きな場所について付箋に書き出す。 (個人→ペア→個人)	○児童とやり取りをしながら、付箋を書いたり増やしたりする流れを示す。 ○付箋を書くときは、短い言葉でメモをすることを確かめる。 ○付箋の色 ・どんなところ(場所の説明)：青色 ・したこと：赤色 「思ったこと」は特に付箋は限定しない。ただし、思いがいかんにかに入るように声掛けをする。 ○「どんなところ」「したこと」について、一人1台端末を活用して収集した情報を振り返りながら書くことを確認する。 ○すべての項目について書き出すように促す。 ○インタビューカードを用いて、ペアで質問し合い、どんなところかを考えたり、したことや思ったことを思い出したりできるようにする。 ○ヒントシートを掲示したりインタビューコーナーを設置したりして、さらに付箋を増やす際に、個人で行うだけでなくそれぞれに応じた学習形態を選べるようにする。 ○情報を集めることができたかを振り返る。 ○もう一度見たいことや確認したいことがあれば、振り返りに書くことよいことを伝える。	◆経験したことや調べたことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 イ① ★取材シート、付箋
	課外二	【情報の収集】 自分の好きな場所に行ったり、写真や動画を、一人1台端末を活用して撮影したりする。	○情報の収集を再度行いたい児童が行う。	

	3	<p>1 文例を見て、内容の検討・構成の仕方を確かめる。</p> <p>2 好きな場所について、付箋を付けたり、内容の検討をしたりして、選んだ付箋を構成メモに貼る。</p> <p>3 構成メモに貼った付箋の順序を考える。</p> <p>4 振り返りチェックシートを活用して、構成メモを読み直し、付け足したり順序を入れ替えたりする。(取材⇄構成)</p>	<p>○文例の付箋を示し、付箋の情報を確認め、その場所について新1年生にいちばん伝えたい「どんなところ」の付箋を選ぶことを確認する。</p> <p>○「どんなところ」に関連する「したこと」の付箋を選ぶこととする。</p> <p>○理由を振り返り、「中」に「どんなところ」を入れるか判断する。</p> <p>○「中」の部分は、初めに「どんなところ」、次に「したこと」の順になることを確認する。</p> <p>○好きな場所のことが伝わるためには、「中」の付箋をどのように並べるとよいか、考えられるようにする。</p> <p>○選んだ付箋が、新1年生に伝えたい「したこと」とつながりのある付箋かどうかを確認め。</p> <p>○どうしてそのような順序で構成メモに付箋を貼ったのか、その理由を考えられるように促す。</p> <p>○付箋を付け足したり、情報の再検討が必要だったりする場合は、一人1台端末などを活用してよいことを伝える。</p>	<p>◆粘り強く、経験したことや調べたことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。ウ①</p> <p>★取材シート・学習計画表・観察</p>
	4	<p>1 文例を読んで、付箋のメモを文にする仕方を確かめる。</p> <p>2 構成メモを基にして、記述シートに文章を書く。</p> <p>3 「終わり」を書く。</p> <p>4 書き終えた児童から、振り返りチェックシートを活用して、音読して推敲する。</p>	<p>○全体で、文例の付箋を文にすることで、記述の仕方を確かめる。</p> <p>○「したこと」と「思ったこと」の書き方の文例を複数示し、多様な記述方法があることを確認する。</p> <p>○付箋を基に文章への直し方を児童と一緒に確認する。</p> <p>○書くことがなかなか進まない児童には、文例の言葉を参考に書くとよいことを助言する。</p> <p>○文例を参考に、「終わり」に新1年生へのメッセージを書く。</p> <p>○誤字脱字などの形式の推敲や、内容についての推敲をするように促す。</p>	<p>◆語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。ウ②</p> <p>★記述シート</p> <p>◆学習の見通しをもって、自分が伝えたい題材について紹介する文章を書こうとしている。ウ②</p> <p>★記述シート・チェックシート・観察</p>

三	5	<p>1 推敲した記述シートを基に、紹介カードに文章を書く。</p> <p>2 紹介カードをペアで見せ合いながら音読し、「よかったよカード」に書いて渡す。</p> <p>3 文章を書いて分かったことや身に付いたことを振り返る。</p>	<p>○前時の「学習計画表・振り返りチェックシート」を確認しながら紹介カードを書くようにする。</p> <p>○好きな場所について正しく伝わったか、文章を読んでどのように感じたかを書くことよいことを確かめる。</p> <p>○これまでの学習の振り返りや、振り返りチェックシートの振り返りなども見ながら、文章を書いて分かったことや身に付いたことを考えるように促す。</p>	
実の場		<p>・校内に掲示（QRコード）し、新1年生に読んでもらう。</p> <p>・保護者から、コメントをもらう。</p>		

6 本時の学習（2/5時間）

（1）本時のねらい

○校内の好きな場所での経験から書くことを決め、必要な事柄を集めることができる。

（2）本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
<p>1 「中」の内容を書くことを知り、付箋の書き方を確かめる。</p> <p>2 好きな場所について付箋に書き出す。 (個人→ペア→個人)</p>	<p>○前時の短冊や課外で行った情報の収集を振り返り、自分が新1年生に伝えたい場所について詳しく書くことを知る。</p> <p>○児童とやり取りをしながら、付箋を書いたり増やしたりする流れを示す。</p> <p>○付箋を書くときは、短い言葉でメモをすることを確かめる。</p> <p>○付箋の色 ・どんなところ：青色 ・したこと：赤色 「思ったこと」は特に付箋は限定しない。ただし、思いがいかいずれかに入るように声掛けをする。</p> <p>○「どんなところ」「したこと」「思ったこと」について、一人1台端末を活用して収集した情報を振り返りながら書くことを確認する。</p> <p>○すべての項目について書き出すように促す。</p> <p>○インタビューカードを用いて、ペアで質問し合い、どんなところかを考えたり、したことや思ったことを思い出したりできるようにする。</p> <p>○インタビューをする際は、書き手が「どんなところ」と「したこと」のどちらの付箋を増やしたいのかを伝える。書き手であるペアは、書き手が伝えた方の質問項目を優先的に質問するようにする。</p> <p>○ヒントシートを掲示したりインタビューコーナーを設置したりして、さらに付箋を増やす際に、個人で行う</p>	<p>◆「書くこと」において、経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めることができている。（★取材シート、付箋）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○ <u>おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</u> ・情報の収集(付箋の色に)に偏りがある場合は、インタビューカードを手掛かりに付箋を増やすように促す。</p> <p>○ <u>おおむね満足できる状況を</u> <u>目指す児童への本時以降の手立て</u> ・経験を一緒に振り返り、好きな場所を決められるように促す。 ・経験を一緒に振り返り、思い出したことを書き留められるように促す。</p> </div>

3 振り返りチェックシートを活用して、学習を振り返る。	<p>だけでなくそれぞれに応じた学習形態を選べるようにする。</p> <p>○情報を集めることができたかを振り返る。</p> <p>○もう一度見たいことや確認したいことがあれば、振り返りに書くとよいことを伝える。</p>	
-----------------------------	--	--

	具体的な児童の姿	評価に応じた指導・支援
評価規準を十分満たしている	<ul style="list-style-type: none"> ・「どんなところ」「したこと」「思ったこと」について詳しく思い出し、付箋に書くことができている。 ・好きな場所の理由と集めている付箋の内容が関連している。 	
◆評価規準 (★取材シート、付箋)	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介する場所を決め、「どんなところ」「したこと」の付箋を書くことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集(付箋の色に)に偏りがある場合は、インタビューカードを手掛かりに付箋を増やすように促す。
評価規準に満たない	<ul style="list-style-type: none"> ・報告する場所を決められない。 ・「どんなところ」「したこと」の付箋が2色揃っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験を一緒に振り返り、好きな場所を決められるように促す。 ・経験を一緒に振り返り、思い出したことを書き留められるようにする。